

春秋会

ニュースレター

2024.10



今月の予定

・10月18日(金)12:00~
13:00 幹事会

梅乃宿酒造見学&梅酒・梅シロップ作り

研修委員会 清水智也 (75期)

令和6年9月7日、親睦委員会、研修委員会共催で梅乃宿酒造株式会社の酒蔵にて、蔵見学及び梅酒・梅シロップ作り体験を行いました。



「梅乃宿酒造って、聞き覚えが…。」と思われる先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。実はこの企画、本年6月4日実施した『自分らしく働く～131年目の酒蔵、創造への挑戦～』のスピノフ企画として実施されたものになります。前回の研修時、「梅乃宿酒造の酒蔵見学も楽しそうで、行ってみたいです。」との感想があり、それを受けて講師の梅乃宿酒造株式会社代表取締役で、五代目蔵元の吉田佳代社

長からご厚意で「よければ、ぜひ今度は皆さんで酒蔵の方に遊びに来てみてください。」とのお言葉をいただき始まった本企画。見学当日は楽しく、勉強になる非常に有意義な時間でした。それでは、当日の様子についてご紹介します。

今回の企画では「梅酒&梅シロップ作り体験」と「酒蔵見学」の2つを行ってきました。

まずは、梅酒・梅シロップ作り体験です。この体験の魅力は、なんといっても自分だけのオリジナル梅酒・梅シロップが作れることです。ボトルの大きさ、梅、糖、そしてお酒の全てに複数の選択肢があります。今回体験した際には梅の実が4種類、糖も4種



類あり、さらに選べるお酒の種類が3種類あるので、合計48種類の選択肢があります（梅シロップはお酒を使用しませんので、合計16種類からの選択です。）。当日は参加者の皆様同士で相談しながら楽しく選びました。私は、「鶯宿」という梅の実に、「金平糖」と「香味日本酒」の組み合わせで作成しました。完成品は写真映えする美しい出来上がりです。参加者の皆さまもフォトスポットに各々作った完成品を持っていき、撮影タイムを楽しみました。

2024 年度広報委員

- ・河野雄介(60期、委員長)
- ・小野順子(57期、担当副幹事長)
- ・西原和彦(55期)
- ・堀川智子(57期)
- ・溝上絢子(57期)
- ・浦寛幸(59期)
- ・松尾洋輔(59期)
- ・広瀬元太郎(60期)
- ・柳勝久(61期)
- ・山田寛子(65期)
- ・金星姫(66期)
- ・木場晶子(67期)
- ・田村瞳(67期)
- ・板崎遼(67期)
- ・吉留慧(68期)
- ・高一成(69期)
- ・根本俊太郎(70期)
- ・足立敦史(71期)
- ・村本健司(71期)
- ・河野哲平(71期)
- ・才木晴幹(72期)
- ・中岡さつき(72期)
- ・中西教子(72期)
- ・久井大輝(73期)
- ・佐々木崇人(74期)
- ・神澤鈴子(74期)
- ・今野敬文(76期)
- ・小林悠人(76期)



次は、酒蔵見学にて日本酒の製造工程を学ばせていただきました。実は日本酒（清酒）の発祥の地は奈良県といわれております。私達が口にする日本酒の作り方は奈良から全国に広まったものといわれているそうです。私達が普段美味しく飲んでいる日本酒ですが、その製造はまさに秒単位のずれも許されない時間管理と職人の研ぎ澄まされた五感が必要な作業の数々ばかりです。日本酒作りでも機械を使用して効率化を図っている工程もあるそうですが、発酵具合を確認する作業は職人の経験、嗅覚、聴覚なしにはできないそうです。見学途中に発酵具合の確認を体験できるブースがありました。かすかに聞こえる炭酸ガスの「シュワシュワツ」という音とほのかな「甘い」匂いを感じて発酵具合を確認するそうです。難しい作業でまさに「職人芸」でした。見学後は、日本酒4種、果実リキュール3種、そして新作商品3種の試飲をさせていただきました。お酒が飲めない方には梅乃宿酒造直営店オリジナル梅ジュースの試飲をさせていただきました。私は、お酒の試飲をさせていただきました。その中でも一番印象に残っているのが梅乃宿酒造直営店限定で販売している「大和の果茶酒」。なんとこのお酒、「柿」と「ほうじ茶」、「日本酒」で作られたお酒です。柿の甘さと飲んだ後にほうじ茶の良い香りがする今までに味わったことのない美味しさでした。

今回の見学で一本の日本酒を作るのにかかる時間と労力を知り、より深く日本酒を学ぶことができる一日でした。これから日本酒を飲む際はより一層美味しく飲めそうです。ちなみに、参加者の皆さんが作られた



- ・永田駿(76期)
- ・山口謙都(76期)



梅酒ですが、10月5日に完成予定です。自分で作ったお酒がいよいよ飲めるため、楽しみで仕方ありません。

今回の企画にご協力いただきました研修委員会、親睦委員会の先生方、楽しい

1日をご提供いただき、誠にありがとうございました。

以上

ひと月一島、国内航路全制覇への旅(16)

～沖縄県：南大東島～

広瀬元太郎(60期)

南大東島の宿「コテージ KIRAKU」は、レストランが併設されていないが、朝7時に朝食の大東寿司が部屋に届けられることになっている。7時過ぎごろ、昨日、車で送ってくれた宿のオーナーが部屋のベルを鳴らす。着替え中だったので、ちょっと待ってくださいと言ったところ、ここに置いときます、と去って行った。「ここ」といっても、コテージの扉の前は完全に外である。生ものの寿司を、すでに気温が30度を超えるような場所に置かれても嫌なの



【地理院地図】

で、半分裸のような格好で寿司を回収に行ったところ、筆者の部屋の前のテーブルで、30歳後半くらいの女性が一人寿司を食べていた。そこにテーブルがあるのは、昨日から認識していたが、草ぼうぼうの場所に置かれており、朝から酷暑の中そこで食事をする者がいるなど想定していなかった。変態扱いされそうである。お姉さんは、爽やかに「おはようございます！」と筆者に声をかけた。

大東諸島は、様々なタイプの旅行者がいる。

さて、今日はすでに旅行の最終日である。15時35分の飛行機で那覇を経由して大阪に帰る。こんなところまで来て、2泊3日で帰るのはほんとうにもったいないが、仕事をしないと旅費を稼げないのでしかたない。飛行機の時間まで、一日南大東島を回る予定である。おそらく、著名な観光ポイントは全部回れるだろう。

南大東島の大まかな構造を説明する。島の大きさは南北6キロ、東西5キロ、大阪環状線の内側より少し狭いサイズ感である。島の周囲は高い崖で、砂浜が無いという点は、北大東島と同じである。大阪環状線内側の範囲の人口は1200人、タワマン1棟分である。こう書くと過疎の限りを尽くしているようであるが、北大東島の約2倍の人口があり、北から見るとかなりの都会である。信号機や飲食店が複数あるのはすごい。島の集落はただ一つ、「在所」という集落で、KIRAKUも月桃ムーンビーチの別館も南大東島役場も郵便局も气象台もここにある。なお、3つめの宿「ホテルよしざと」もここにある。おそらく、「ホテルよしざと」が南大東島でいちばん大きなホテルで、皇族が宿泊したらしい。そして、昨日上陸した港（北港）と在所をつなぐメインの南北道路がある。空港は、島の東側にあり、在所と空港の間に東西の主要道路が走っている。あとは、環状に島を回る道路が二重くらいある。



南大東島も北同様に公共交通機関がないので、原チャリを借りて回ることにする。コテージKIRAKUはレンタルバイクを扱っておらず、3件ある宿泊施設の中のひとつ「月桃ムーンビーチ」に、昨日電話して予約しておいた。「最後の1台です」とのことだった。この漢字+漢字ごとの意味の英訳で構成されるよくわからない民宿は、KIRAKUから5キロほど離れた空港の近くにあるらしく、オーナーが車で送ってくれる。オーナーはほんとうに親切である。旅行の際はここをお薦めする。

「月桃ムーンビーチ」に着いたが、誰も人がいない。バイクもない。すでに、島の流れに体が慣れてきたので、そのうちだれか来るだろうと思ったが、動きが無い。結局、バイクは、コテージKIRAKUから徒歩3分のところにある月桃ムーンビーチの別館に置いてあるらしく、また在所集落にもどる。オーナーが申し訳ありませんと謝るが、オーナーに全く罪は無い。これで文句を言ったらクレマーである。別館は別の名前にしていただくとありがたい。しかも、昨日からこの別館の前何度か通っているが、看板も無いので宿泊施設とは思わなかった。確かに、別館に

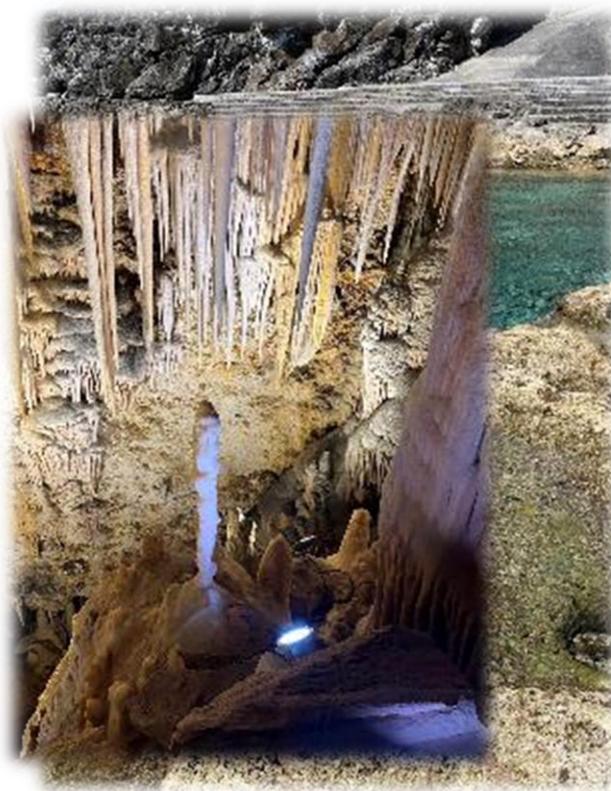
はバイクが置いてあり、茶髪のお姉さんからバイクを借りる。この金髪のお姉さん、どこかで見たような気がするが思い出せない。

南大東島の代表的な名所は、①星野洞という鍾乳洞、②バリバリ岩、③シュガートレイン跡、④日の丸展望台、⑤海軍棒プールがあげられる。何のことがよくわからないと思われるがその都度説明する。



在所から一番近い④日の丸展望台に向かう。在所集落から出ると人通りも車もいなくなり、真夏の光を浴び原チャリで飛ばすのは快適である。ただ、昨日から薄々気づいていたのだが、やたらに道にカエルの死骸が多い。100mに一匹くらいの頻度で死んでいる。原チャリで、建前上は時速30キロで走ったとしても、一分間に5匹は出くわす。それも少し大きめの奴なのでグロい。北大東島では、カエルの死骸など見なかったのに、これは南大東島のおおきな特徴である。

④日の丸展望台には予想通り誰もいなかったが、眺めは美しかった。南大東島には山は無く、在所集落以外は、ひたすらサトウキビ畑が広がっている。真っ平らな土地に直線的な道路、そこからの眺めは、沖縄というよりは、北海道の帯広とかの展望台から景色に似ていた。次は、⑤の海軍棒プールに向かう。海軍棒プール、海軍の上官が泳げない者を棒で殴るような危険なネーミングであるが、「海軍棒」+「プール」と、ここで切る。海軍棒は場所の名前で、明治時代に海軍が測量のため棒を立てた場所であることに由来する。プールとは、崖に囲まれた大東島で海水浴ができるように、サンゴ礁を長方形に掘り込んでプールにした施設である。砂浜の無い大東島における泳ぐための施設、北大東島の「沖縄海」に似たものである。広さは小学校の25メートルプールくらいである。ここには先客が一人おり、プールで独り泳いでいた。彼のことは知っている。昨日、食堂で見た。男二人旅だと思ったが、一人旅だったのか。彼は、筆者に「気持ちいから泳げ」と言ってきた。気分的には、海に突入したい気分であったが、ここで水浸しになると、この後の着替えとかが面倒だなどと、大人っぽいことを考えて、足を付けただけでやめてしまった。悔やまれる。



今、島を反時計回りに回っている。海軍棒プールは、時計の4時の位置にある。次は、②のバリバリ岩に向かう。バリバリ岩は、時計の12時の位置にある。3時の位置にある南大東空港の前を通り北に向かう。朝に間違っ来て来た月桃ムーンビーチの前を通過、あとは、ひたすらサトウキビ畑の中を進む、同じような景色が続く、前に進んでいるのか疑問に思うころ、バリバリ岩に着く。バリバリ岩は岩の裂け目である。地質学的には重要なものらしい

が、次に進む。①の星野洞は、南大東島最大の観光地である。正直いって期待していなかったが、思ったよりずっと大きな鍾乳洞であった。なんの変哲もないサトウキビ畑の真ん中に、洞窟の入り口の小屋のようなものがあり、そこから階段を降りていくと、地下世界が広がる。一番有名な観光地のわりには、先客は一人だけで、係員も配置されていないから、静かであるが怖い。今地震が起こったら、確実に取り残されるので、早く出たくなった。

⑤のシュガートレイン跡は、島のど真ん中にある。この島の大半がサトウキビ畑であることは説明したが、サトウキビ運搬用に1910年代に鉄道が敷設された。この鉄道は、製糖会社の運営で、島の環状線と数本の支線合計29キロに及んだ。鉄道と縁の薄い沖縄において最初の鉄道であり、なんと1983年まで運行されていたのである。これは、ぜひ行かなければならない。ただ、シュガートレイン跡地といっても、踏切のあとが残っているだけであった。周囲は、ただサトウキビ畑が広がるだけ、海は全く見えず、絶海の孤島にいることが嘘のようである。

ということで、4時間くらいで、観光地とされている所は回り終えた。あとは、適当に島の道をバイクで走り回った。空港にはKIRAKUのオーナーが送ってくれることになっている。また、部屋は出発まで使ってもいいと言われ



ていたので、少し早めに宿に戻ってシャワーを浴びたり着替えをしたりしたい。炎天下を原チャリで走り回って、汗だくである。海軍棒プールで泳いだのほとんど変わらない。KIRAKUにもどると、朝と同じ場所にお姉さんが座っていて、「こんにちは！」と声をかけてくる。この人は、ずっとここにいたのだろうか。

短かった大東諸島の旅も終わりが近づいてきた。オーナーに空港まで送ってもらう。さきほどのお姉さんも同じ便で帰るらしく、一緒に車に乗る。帰りの車の中で、オーナーにカエルの死骸がこんなに多いのはなぜかと聞いてみた。たぶん説得力のある説明ではなかったの、すでに理由は忘れてしまった。ヒキ（轢き）ガエルと呼ばれていますという点だけ記憶に残った。お姉さんは一人旅のようで、筆者の着ているアロハに興味を示し、どこで買ったのか聞いてくる。那覇の国際通で買ったという、東京では買えないので私も買って帰りたいという趣旨のことをおっしゃる。東京でもアメ横とかでは売ってそうな気がするが、そういう所には行かなさそうな雰囲気も感じられる。彼女の島での行動パターンも謎で、なにか訳アリかと思ったりしたが、女性の一人旅など今どき普通に、いちいち訳ありとか考えることが昭和おやじ的发想なので、強く反省しなければならない。



空港には、今まで島で何回か出会った観光客が集まっていた。海軍棒プールの人も月桃ムーンピーチの金髪の姉さんもいた。10分ほど前に北大東空港からやってきた飛行機が那覇行となって出発する。この北大東→南大東の日本一短い航空路線は、この7月31日で廃止になる。それ以降、飛行機で北大東に行く場合は、那覇経由で700キロ飛んでいかなければならない。この航空路線の廃止に伴い、全国から航空ファンが南北大東島にかなりやってきており、夏休み前の時期にしては、

異様に観光客が多いという話はいろいろなところで聞いた。毎日運航の南北間航空路がなくなると、南北大東島移動は、週に1回あるかないかで、かつ不安定な船便しかなくなる。南北大東島を同時に観光することは極めて困難となる。観光客がどちらかを選択するとすれば、たぶん南大東島になると思うので、北大東島の観光は結構大変ではないかと思われる。

那覇行の飛行機は飛び立つと、南大東島の南岸を上昇していく。ちょうど、窓から①～⑤の観光地がすべて見下ろせる。原チャリで走った道も、きっちりとトレースできるし、KIRAKUのコテージも目を凝らすと見える。やがて、

南大東島は視界の後方に去り、沖縄本島まで350キロの青く果てしない海が続く。

終

嘱託弁護士退任のご挨拶

下枝歩美（67期）

2年間、大変お世話になりました。なんとか無事に役目を終えられました。嘱託に就任する時は、子供ら（双子）がまだ1才だったこともあり、不安もないわけではなかったのですが、当時の幹事長である飯島奈絵先生は明るく全然大丈夫よ！とおっしゃってくださいました。実際、飯島先生は会議をリモートでも参加できるようにしてくださったり、会議の時間帯も昼休みや朝の時間帯を利用して開催したりと、多くの会員が参加しやすいように、工夫を推し進めてくださりました。私にとっても参加しやすい環境で、とてもありがたかったです。

少し誤算だったのが、子供の体調不良の多さです（苦笑）。嘱託を引き受けた当時は保育園に順調に通っており、これなら引き受けても大丈夫だろうと思いました。ところが嘱託に就任した秋頃から、気温が下がったのが原因でしょうか、子供らが発熱等の体調不良で保育園をお休みすることが多々ありました。しかも双子ですから（？）、上の子が風邪を引いたら次は下の子が風邪を引くというように順番に体調不良になるので、困りました。正副幹事長会や幹事会に子供を背負いながら、リモートで参加させていただいたことも多くあります。ご迷惑をおかけすることも多かったのですが、多くの先生方の支えがあり乗り越えることができました。

次年度の幹事長は岩本朗先生で、1年間ご一緒させていただきました。岩本執行部では、正副幹事長会をリアルで開催していました。先ほどと言っていることが真逆のようで申し訳ないのですが、実際に顔を合わせて行う会議は、和気あいあいとしていて、学生時代の部活動のようでとても楽しかったです。堺筋本町には美味しい飲食店がたくさんあるので、会議の帰りは船場センタービル等でランチを楽しんでいました。

岩本先生はいつも副幹事長ら優秀なメンバーに恵まれたとおっしゃっていました。各副幹事長らが優秀なのはもちろんのこと、配慮と安定感のある岩本先生の指揮の下、安心して職務に全うすることができました。

岩本執行部では会員の増加にも注力し、会費減額検討PTを立ち上げました。翌年度の9月総会で会費規則改正の承認を得るところまで立ち会うことができました。

個人的には、岩本先生の自宅と私の実家がとても近く、地元のマラソン大会の話やふとん太鼓祭りの話をしたり、親近感を覚えました。

そして、今年度は村瀬謙一先生が幹事長を務めておられます。あっという間の半年でした。村瀬執行部で印象的だったのは、これまでの運用に捕らわれず、議論を活発に交わしていたところです。9月総会では会費規則改正や選考

委員会の運用の在り方について議論がありましたが、そこに至るまで、あるいはそれ以外の細かいところ（例えば委任状の様式等）まで、種々の議論が交わられていました。風通しの良い春秋会らしいなと感じていました。

それぞれ違った個性のある執行部の下で、勉強させていただきました。本当に貴重な体験をする機会をいただけたことに感謝いたします。

今後は運動会や地引網体験に娘らを連れて参加しようと思っています。みなさまとお話できることを楽しみにしております。

嘱託弁護士就任のご挨拶

村本健司（71期）

71期の村本と申します。

私は、弁護士になった直後に春秋会に所属し、以降、各種委員会や春秋ゴルフ等に参加させていただいたご縁で、春秋会会員の諸先輩方に大変お世話になってきました。

例えば、弁護士登録後一年を待たず独立した私を案じ定期的に事件を振ってくださった先生方、事件を共同受任してくださったうえ具体的事案を通じて弁護士のいろはをご教示くださった先生方、困難な問題に直面した際に私に代わり当該問題を解決してくださった先生方、いずれも春秋会の諸先輩方でした。

春秋会から多大なる恩恵を受けている身として、いつかは春秋会に恩返しをしなければならないと思っています。春秋会嘱託弁護士となるのが春秋会への恩返しとなるのか、或いは更なる恩恵を受けることになるのか不分明ですが、春秋会及びその会員のため尽力する所存ですので、二年間どうぞよろしく願いいたします。

あとがき

広報委員会では、会員の皆様から原稿を大募集します。ぜひ、ご連絡ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

などありましたら、以下のアドレスにご連絡ください。

広報委員長 河野雄介 y.kono@swlaw.jp